

③ 区民への情報発信の検討

区民への情報発信の内容や方法について検討した。

○検討結果

まず、区民会議とは何なのかを発信する必要があり、SNS 等を活用して区民会議の取組等について情報発信していく。

また、個人、企業、団体等が行う緑に関する取組を取り上げていくと区民の気付きにつながり、取組を行う主体のモチベーションの向上にもつながるため、どのような形で情報発信できるかを含め、検討していく。

また、環境の日について、区民に知ってもらうために、環境に関する情報発信を行うだけでなく、ゴミ拾いなどの具体的な行動を実践することも検討していく。

(まとめ)

区民への情報発信の強化の取組を通して、区民会議やその活動を知ってもらい、区民に環境について関心を持ってもらうきっかけを作ることができた。

情報発信について、環境の日が上手く活用されていない現状があるが、環境の日を活用していくことが有効であり、その内容・方法について議論した。

環境の日を PR する手法の一つとして実施したすみだエココラムの配信では、区公式ウェブサイトや SNS を活用することで、区民会議委員として広く区民に対して環境に関する発信をしていく場を作ることができた。委員が区民に意見や活動を伝えることができるようになり、委員の活動のモチベーションも向上した。

今後、環境の日を活用した情報発信や取組の強化を検討していくとともに、実施の際には、SNS を積極的に活用していく。

(3) すみだ環境フェアへの出展

① 令和5年度すみだ環境フェア

前期の区民会議のテーマが気候変動であったことを踏まえ、「**知って・動いて・エコに得♪ 2023年墨田区民エコ会議**」というタイトルとして気候変動に関する出展を行った。

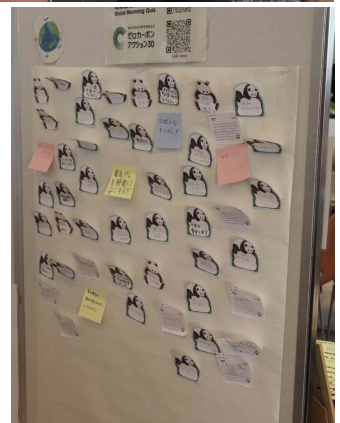
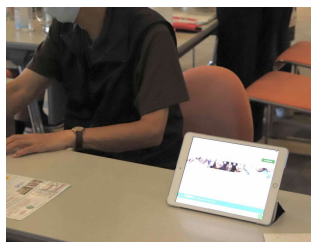
内容としては、地球温暖化等の現状に関する説明、区の環境区宣言・ゼロカーボンシティ宣言の紹介、地球温暖化対策・ゼロカーボンに向けて必要となる緩和策と適応策についてのパネル展示を行った。また、来場者との双方向の意見交換の場を作るため、来場者がゼロカーボンに向け、どのように取り組んでいきたいか、付箋に宣言を記載してもらった。併せて、タブレットを使用し、来場者に環境保全課で作成した環境学習ツールを体験してもらう場を設けた。

○開催日 令和5年6月24日（土）及び25日（日）

○場所 すみだリバーサイドホール イベントホール

○実施結果

- ・環境フェア全体の来場者数 558 名
- ・すみだ環境共創区民会議ブースの来場者数
 - 【6月24日（土）】189 名
 - 【6月25日（日）】166 名 ※昨年度は2日間で105 名



【環境フェアで出た区民からの宣言まとめ】

内容	件数	内訳
節電に関すること	55 件	・節電の心がけ・こまめに電気を消す 30 件 ・冷蔵庫関係 12 件 （開閉回数を減らす 6 件、設定温度 1 件、中身をつめ過ぎない 4 件、台数を減らす 1 件） ・冷暖房関係 12 件 （使用量の削減 5 件、設定温度を再調整 4 件、フィルター掃除 1 件、うちわの活用 1 件、扇風機を活用 1 件） ・照明を買い替える 1 件
ごみに関すること	25 件	・ごみの減量 6 件 ・食べ物を残さない 6 件 ・マイボトルの活用 6 件 ・エコバッグの活用 5 件 ・無駄なものを買わない 1 件 ・リサイクルの徹底 1 件
節水に関すること	8 件	・節水（シャワーの量を減らす等） 8 件
緑化に関すること	2 件	・緑を増やす 2 件
その他	8 件	・下水に油を流さない ・移動に車を使わない ・二重窓にする 外 5 件

○委員の意見（抜粋）

- ・来場の動機付けのため、SNS を活用すべきである。
- ・会場に映えスポットを設ける、ハッシュタグを活用するなど、SNS で区民に拡散してもらえるとよい。
- ・手に取って触れられるような物があつた方が行動変容を促しやすい。
- ・昨年よりも内容が充実し、パネルに目を向けてくれる人が増えた。
- ・区民会議が何者で何をやっているかをまず伝えた方がよい。
- ・景品があり、来場者が喜んでいて、来年も景品の検討が必要である。
- ・アンケート等で区や区民会議に望むことを回収できたならよかった。
- ・環境の日を知らない人が多かった。環境の日や区民会議をもっとアピールできるとよい。
- ・地球くんをもっと活用した方がいい。

（まとめ）

ゼロカーボンに向けての区民の宣言について、今期のテーマである緑化に関する宣言は2件のみであった。自宅内のできる、緑化より取り組みやすいことを挙げている区民が多かったが、ゼロカーボンと緑化が直接結びつく認識が高くないこともその要因であると考えられる。

また、来場の動機付け、区民会議や取組のPRのため、環境イベント前後に関わらず SNS 等での情報発信が重要である。

② 令和6年度すみだ環境フェア

今期のテーマ「緑の維持・育成」を踏まえ、「育てよう 墨田の緑と環境」というタイトルでブース出展を行った。内容としては、すみだのおすすめグリーンスポットマップ、すみだ環境共創区民会議と活動の紹介、地球温暖化と緑の役割、カーボンニュートラル、ゼロカーボンシティ宣言などについてポスター展示を行った。また、朝日信用金庫の寄付で区が導入する電気自動車のラッピングデザインに関する投票ブースを設置し、来場者に投票をしてもらった。

ブース来場の希望者に、委員が撮影した花や緑の写真を活用したポストカードや委員が育てた菜の花の種キットの配布を実施した。いずれもQRコードを印刷・貼付し、区民会議ホームページにリンクできるようにした。

○開催日 令和6年6月15日（土）及び16日（日）

○場所 オリナス錦糸町

○実施結果

- ・環境フェア全体の来場者数 835 名（昨年度：558 名）
- ・すみだ環境共創区民会議ブースの来場者数
 - 【6月15日（土）】305 名（昨年度：189 名）
 - 【6月16日（日）】446 名（昨年度：166 名）



○委員の意見（抜粋）

- ・緑と花というテーマは子どもから大人まで親しみやすく、来訪者にわかりやすく伝わった。
- ・開催場所がオリナスであるため、若い家族を中心に多くの来場があり、前回よりアピールできた
- ・区民会議の説明パンフレット、HPのURLやQRコードを載せた名刺のようなものを配れると、区民会議の周知になる。
- ・ポストカードは表がきれいな写真で、裏面は区民会議のQRコード・インスタ案内があり、ポストカードをきっかけに花に興味がある人が区民会議に興味を持ってもらえると思った。
- ・ポストカードを来年作成する場合は、1年間を通じた草花をポストカードにするのがよい。
- ・菜の花の種の配布について、種がどのように育ったかなど配布の効果がわかるとよい。
- ・ポストカード等の景品については、予算化を希望する。
- ・QRコードについて、アクセス数で効果が検証できるとよい。
- ・電気自動車のアンケートはお客さんと会話するきっかけになった。
- ・ブースは写真映えして華やかでお客さんが立ち寄りやすかった。
- ・SNSでの情報発信は継続していくべきである。
- ・気候変動・地球温暖化問題についてもっとPRできるとよかった。
- ・ゼロシティカーボン宣言は知らない人が多いので周知が必要である。

（まとめ）

オリナスでの開催で例年より多くの来場があり、多くの方に区民会議、墨田区のおすすめグリーンスポットなどについて紹介をすることができた。

花のポストカード配布について、非常に好評で花に興味を持つ方が多くいることがわかった。今後、情報発信の際に区内の花の写真を活用することが有効であると感じた。

また、菜の花の種の配布も好評であったが、実際に持ち帰った種をどのように育てたか、どのように感じたかなど取組がどのような影響を及ぼすかなど検証する必要がある。

（４）緑の維持・育成についての検討

今期のテーマ「緑の維持・育成」について検討を行った。まず、緑の維持・育成のために区民の方がどういった行動をとっていけばよいかについて、意見を出し合い、その結果を踏まえ、議論を行った。また、議論の際に、住民が「緑の維持・育成」に取り組む事例として、友好都市である長野県小布施町の「おぶせオープンガーデン」について取り上げた。

（検討結果）

緑の維持・育成のために区民の方がどういった行動をとっていけばよいかについて、委員から多く出た意見を４つの項目「緑に興味を持ち、緑に触れる」、「緑を育てる」、「緑について考え学ぶ」、「情報を発信する」に分類した。

１ 緑に興味を持ち、緑に触れる

- ・区民が興味をもつ。
- ・緑の必要性を感じる。
- ・緑にふれる機会を増やす。
- ・区内をフィールドワークするし区内の緑を知る。
- ・地域の緑地の利用促進（公園や緑地を利用し、地域の自然を大切にする意識を高める。）
- ・地域の清掃活動に参加し緑地をきれいに保つ。
- ・植樹イベントへの参加

２ 緑を育てる

- ・緑を実際に育てる活動の推進
- ・自宅の路地花壇や庭の手入れ
- ・家庭菜園やベランダ菜園、軒先菜園を広げる。
- ・日頃から緑を育てる。
- ・個人で軒先やベランダに緑を増やす。また、そのためのアドバイザーの認定。
- ・個人で植栽を楽しむ（また、その機会をつくること）。
- ・家庭で緑を育てる（プランター・土・種の無料配布事業）→状況の SNS 発信→レポート提出→環境フェアで発表

３ 緑について考え学ぶ

- ・勉強会、講習会への参加
- ・栽培方法などを学ぶ機会を増やす。
- ・森林破壊の地球環境への影響について考えることから始める。
- ・環境教育（講座やワークショップ）への参加

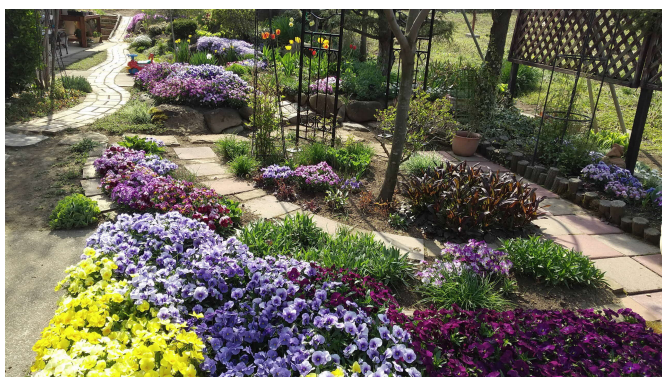
４ 情報を発信する

- ・自治体や企業の取組の周知、SNS 発信
- ・新しい取組事例の紹介
- ・個人の緑の維持・育成の取組の情報発信。また、取組に係る意見を行政に届ける。
- ・緑化の推進を関連団体に呼び掛けていく。
- ・区内の掲示板等を活用するなどして、区民の行動を発信していく。
- ・情報共有と啓発活動（SNS や地域の集まりでの情報共有、共創会議のホームページ活用）

・小布施町のおぶせオープンガーデンについて

オープンガーデンとは個人の庭などを一般の方に公開する活動のことで、「おぶせオープンガーデン」は、2000（平成 12）年に 38 軒でスタートした。これは、小布施市が 1980（昭和 55）年から取り組んできた「花のまちづくり」、また、小布施町に伝わる「縁側文化」「お庭ごめん」の相乗効果として、訪れた方々を花でもてなし、会話を通して交流を図るもので、官民が一体となって取り組んだオープンガーデンとしては全国初のものである。

当事業に関して、委員から要望のあった質問について小布施町観光課の担当者に内容をお聞きし、それを踏まえ墨田区においても参考となることがないか検討した。



おぶせオープンガーデン写真 ※出典：OBUSE Open-Garden(<https://obuse-opengarden.com/>)

おぶせオープンガーデン概要	
①当該事業をはじめたきっかけ	小布施町は、昭和 55 年以前から花によるまちづくりを進め、官民一体となり自治会花壇、公共花壇づくりに取り組むとともに、個人のお宅でも、花による庭づくりをされる方が増えていった。 オープンガーデンは、NHK「趣味の園芸」講師などでご活躍されている杉井明美先生より、発祥地のイギリスのオープンガーデン「イエローブック」の「小布施版」を提案され、町が広報誌による募集や、ガーデニングに取り組まれる方々に直接参加を呼びかけ、38 軒でスタートしたものである。
②当該事業をはじめてみての反響	町にお客様が訪れることにより、花仲間の交流の輪が広がり、町全体にも活気が出ると共に、オープンガーデンのお宅のみならず、近所のお宅もきれいになり、地域がきれいになった。
③どうしてもここまで多くの家庭が参加していただけたのか（その働きかけの仕方など）	当初は個人のお庭を公開することに抵抗があり、なかなか参加してもらえなかった。また、参加したいが誘われるのを待っている方もいた。そんな方々の口コミでオープンガーデンが広く周知されるようになり参加者が増えた。 働きかけについては、広報誌による募集、町が直接参加を呼び掛けるなどした。
④補助金等の金銭的支援あるか	小布施町ではスタート時点から、オーナーの皆さんに、苗代等の補助金は差し上げていない。町ではオープンガーデンブックの発刊とお宅の看板を用意しているだけである。 オーナーの方の好意と善意のもとつくボランティアによって成り立っている。開始して数年が経った頃に、補助ではないが支援しようかという話があったが、オーナーさんから「私たちは、支援をもらうために行っているのではない」と、反対の意見があった。
⑤オープンガーデンを作る際にアドバイザーのような人がいるか（制度があるか）	特に制度はない。設立については、杉井明美先生の提案によるものである。
⑥町民のモチベーションはどこにあるか	花のまちづくりは、小布施人の「町を愛する心」「お客様をおもてなしする心」から生まれた活動である。訪れる人に、花を通じた人と人との交流を楽しんでいただきたいという思い、そしてそこから交流の輪を広げその関係性を深めていきたいという思いが、オープンガーデンの根底にあると考えている。 また、住む人や来る人にとって癒される町、花をみて心を和ませ元気になる町でありたいという思いのもと今後も進めていきたい。

○委員の意見（抜粋）

- ・ 具体的に行動に移すことが必要である。例えば、公園を一部管理させてもらい、緑を育てることなどができたらよい。
- ・ 墨田区は個人の庭があまりないので、企業、商店などと協力していくとよい。例えば、北斎通りをガーデニングする（企業とも連携する。）のはどうか。
- ・ 条例等で整備されれば、花の推進が進むのではないか。
- ・ 北十間川周辺のハンギングバスケットを別の場所でも実施できるとよい。
- ・ 種の生育記録を SNS 発信してもらおうとおもしろい。グループをつくり生育記録を載せ合えとなおよい。
- ・ 花壇やプランターを増やしながらも、今ある樹木を維持・管理していくことも重要である。
- ・ 墨田区と小布施町環境が異なり、庭などの花を育てるスペースがない。
- ・ 小布施は、自然に接する機会が多い。そのため、自然に対する知識が豊富である。墨田区等で実施するにあたっては無料のガーデニング講座があるとよい。
- ・ 種や苗を配布するときには、育て方も一緒に教えると緑化推進につながる。
- ・ 種から育てる意識が、まちをきれいにする意識につながる。
- ・ 小布施町では町民がきれいにしようという意識がある。小さな活動が連鎖するように広がっている。
- ・ おぶせオープンガーデンのまちを愛する心が花や緑を育てるという考え方は墨田区でも通じるものがある。
- ・ 小布施町のように、墨田区でも軒先園芸を通して交流が生まれる。
- ・ 地域毎に花の地区を作るのがよいのではないか。

（まとめ）

多くの区民が「緑に興味を持ち、緑に触れる」、「緑を育てる」、「緑について考え学ぶ」行動をとることが「緑の維持・育成」のために重要であること、また、そういった行動・取組について「情報を発信する」ことが必要である。

実際に緑を育てる活動を通して、まちを愛する心を醸成し、それがさらなる緑を育てようという意識につながることを期待できる。

第10期すみだ環境共創区民会議（令和5年度・令和6年度） 委員名簿

役職	氏名	所属等	選出区分
会長	宇田川 明		環境保全活動に 実績のある 区民及び事業者
	森下 香洋子		
	深萱 智子	東京電力パワーグリッド株式会社 江東支社	
	小林 紀子	東京ガス株式会社 東京東支店	
	小木曽 清三		
	橋本 玲子	なでしこ	環境団体の構成員
	門倉 美雪	緑と花のサポーター	
	佐原 滋元	雨水市民の会	
	笠貫 昇	すみだ景観フォーラム	
	橋本 恵子	エコライフサポーター	
	佐野 まさ子		公募による区民 及び区長が必要と認める者
	碓氷 喜信		
	小林 茂美		
副会長	木股 里穂		
副会長	松村 拓也		
	石井 裕二		
	大垣 昌之		
	河田 雅司		
	八林 公平		



すみだ環境共創区民会議
令和5年度・令和6年度

令和7年3月

発行 すみだ環境共創区民会議
事務局 墨田区資源環境部環境政策課

表紙・裏表紙:撮影者 区民会議委員 石井裕二
